

1 期生卒業記念

建築学科

Interview ~Long ver~

教員	大原 一興 先生
卒業生	上田さん、藤澤さん、上山さん
学生インタビュアー	早川さん、久富さん、本松さん

本松 まず最初に大原先生から、建築学科が都市科学部になったことも踏まえて、4年間どのように過ごしてほしいと思っていますか。

大原 はい。私はあまり熱意はないのでどうなってほしいかっていうのはありましたけれど、むしろね、建築にもっと修練してほしいと言う事は感じてました。都市科学部になって、もちろんその周辺の人も含めて、広範な知識が得られる、視野が広がるということだったので、学習段階では価値があることだと思っただけど、建築学科の人には卒業時点では、建築に集中してほしいし、好きになってほしいし、都市科学という広い視点で建築を位置づけて社会に出てほしいという風には思ってる。これは以前の理工学部の建築学コース(建築・都市基盤・環境系)のころから思ってるけど、今は都市の社会的背景だとか、文化的背景っていうをもう少し幅広く教われるようになったということだよな。あと期待してたのは、学生間で、都市科学という一つの学問に向き合う人たちが交流してくれるといいかなとは思ってる。期待としてはそんなことがあって、ただ4年間であくまでも身につけてほしいこととしては、昔から変わらず建築を好きになって、建築を通して社会を創っていくということをみんなには言いたい。だから最終的な事は、あまり僕自身、都市科学部になってから変わってないね。これがいいのか悪いかわかんないけど(笑)。都市科学部になってチャンスが増えたことでその一期生である今年の卒業生はすごくラッキーだったんじゃないかな。

本松 ありがとうございます。大原先生の話聞いて、4年生の皆さんはどうですか？

藤澤 卒業設計も終わったばかりでまだ建築も分かった気はしていないんですけど、いろんな先生の考え方とか、それぞれ計画の先生、歴史の先生、環境の先生の授業や対談を聞いて、広範な学問だなというのはひしひしと感じました。自分は意匠っていうものを大学院でも学ぼうとしてるんですけど、やっとスタートラインに立ったのかなってことは卒業設計を終えて感じることでですね。

上田 僕は4年生で学科で学んだことが、なんか結構総集編というか、建築学科をまとめ上げるモノだったんじゃないかなあと思って。僕は計画研に行きながら卒業設計をしていたので、今までやってきたことの視野が広がってもっと自分の設計に幅が広がったっていうのもあるんですけど、そういう意味では、なんかよくわからずここまでやってきたものが、色々まとまってつながってきて最後卒業設計で形にしたっていうのはすごく良かったなと思う。卒業設計もやり切ったっていうのはもちろんあるんですけど、さっき大原先生がおっしゃったように建築を好きになるっていうことに1番つながった期間だったなと思って、やり切ったことよりも、何かやる気が出たというか、これからは頑張ろうっていう気持ちになった年だったので、4年間をまとめるっていうことではないんですけど、学部4年の時期が1番大事だったなと。まあ、コロナ渦で大変ではあったんですけど、1番成長した時期だったと思います。

1期生卒業記念

建築学科

Interview ~Long ver~

教員	大原 一興 先生
卒業生	上田さん、藤澤さん、上山さん
学生インタビュアー	早川さん、久富さん、本松さん

上山 最初、建築に入った時はカッコいい建築をつくればいいんじゃないかって思ってたんですけど、建築を学べてよかったのは、広がりを持った学問だなって思えたところですね。それこそ構造、建築計画、都市計画、様々な研究があるっていうのもありますし、建築だけに直結するところだけじゃなくて、哲学とか、社会学とか。ただ建築を学ぶだけじゃ建築はできないんだってところを学べたのはすごい大きいんじゃないかなと。建築がそういう広がりを持った学問っていうことを知って、もっと建築を好きになれた一年間だったなと思いました。

本松 みなさん建築が大好きということで(笑) 次は横国の建築で良かったことをお聞きしたいと思います。

上田 学棟があることとかじゃない(笑) 4年はあまり使えなかったけど、2、3年の時は皆と泊って朝まで作業して風呂入りに帰ってまた来て、みたいな。良かったと思います(笑)

藤澤 集中できる環境で、気づいたらもう卒業か、みたいな感じ。建築を学ぶ環境が24時間開いてるのは全然当たり前じゃないことだと思うんだけど、それがさっき言った「建築にその修練していく」っていうことを学生が自らできるような環境を大学側がやってくれるっていうのは、入ってから知ったけど濃密で楽しかったよね(笑)

上山 場所としてもそうだし、教員陣もやっぱりすごく充実してるなって4年生になってから思った。講演に教授の名前書くときに、並べるとすごい面々やなあと。

上田 卒業設計の最終講評もすごい人がいっぱい並んでて強烈だったね。すごい学校だなと。

藤澤 最終講評会は、意匠系の先生だけでなく、構造とか計画とか、いろんな分野の先生が講評してくれたのは、有難いというか、20人とか集まってもらってみんなでわあわあ言って、温かい学科だなあと感じました。

本松 ありがとうございます。他にもあったらお願いします。moomとか、学祭でも仮設建築やったりもしましたよね。

上田 まあ楽しかったし、なんか建築学科は割と自由にやってたなあって。ちゃんとみんなで動いて、学校に相談して、申請を出してって、皆でまとまって自分たちで何か作るっていうのは他の学科とはなんか違うまわりがあったなと。やっぱりそこが他の学科とは違うことじゃないかなと思います。

1期生卒業記念

建築学科

Interview ～Long ver～

教員	大原 一興 先生
卒業生	上田さん、藤澤さん、上山さん
学生インタビュアー	早川さん、久富さん、本松さん

藤澤 なんかサークルとか入らなくても学生生活楽しく過ごせるよね（笑） 割と卒制終わった後でも、どこか遊びに行こうってなるし、学科としてのまとまりは感じますね。

本松 先生との思い出を大原先生の研究室に所属されていた上田さんからお願いします。

上田 3年の前期から計画系の大原先生と藤岡先生に見てもらっていて印象は穏やかな方な感じですね。計画系に進んだのは、T A の計画系の先輩方や高橋一平先生から勧められて3年の秋に大原先生のところに挨拶に行き所属しました。思い出は、4年の時はずっとオンラインでの授業だったので直接会うことはなかったけど、卒制の時は中間の時などお願いしてエスキスしてもらえたのはありがたかったです。大学院は、計画系に行くので今後もよろしくお願いします。

大原 思い出はこれから作っていけばいいんだよ。

上田 あとは、ゼミの懇親会の zoom 飲みでワインを1人で1本空けていたのが思い出ですね。

本松 他の方は先生との思い出はありますか。

藤澤 一方的なのですが大原先生との思い出は、Y G S A ホールでの脱施設レクチャーで大原先生の研究内容について初めて聞いてすごく先のことをやっているんだと思いました。10年後には本当に脱施設になっている話で感銘を受けたのを覚えています。学部時代にそのようないろんな研究室に触れられたら良かったなと思いました。他の先生だと建築学概論でお世話になった菅野先生にはよくしてもらいました。今住んでいる団地に書庫を構えると言った時に遊びに来てもらい、団地について話し合い濃密な関係でありがたかったです。

上山 一方的な思い出ですが大原先生の公共施設の授業が水曜の1限にあり次の日の木曜日がデザスタの提出日で授業に出たり出なかつたりしていたイメージが強いですね。

藤澤 それ！

上山 なので思い出としては強く残っています。

大原 授業に関しては、2年の時に守田先生の西洋建築史たくさん落とした学年かな？再履修の人が多くて蓋開けてみると授業を受ける生徒が少ない学年がありましたね。もう何十年と水曜1限の枠で授業していて尚且つ3年生だから木曜のデザスタのスケジュールも把握していたので、提出に合わせて寝て

1期生卒業記念

建築学科

Interview ~Long ver~

教員	大原 一興 先生
卒業生	上田さん、藤澤さん、上山さん
学生インタビュアー	早川さん、久富さん、本松さん

てもいい授業にすることもありました。4年生の時点で研究室に分かれて割と小規模なコミュニティで先輩方と一緒にやるという経験が例年なんだけど、今年はネットを通じての限られたコミュニティ形成だったかな。飲み会や合宿などみんなでわちゃわちゃすることがなかった年でした。建築の場合、帰属意識が強く建築学科であるということが重要で、他の研究室と違うのは、製図室で夜を徹して作業する経験が社会に出て会社に入ると建築学科の人は明らかにその辺が違う。違うっていうのは、意味なく徹夜するっていうのもあるんだけど、建築学科を出たっていうことでの経験としてすごく重要なのは製図室での経験ってことなんだよね。同窓会に行っても先輩たちから引き継がれていることなんだなって思って、他の大学でも建築学科に人は共通体験したようなシンパシーを持っている。そういうことを身につけているのは経験が大きいのかな。建築のプログラムをちゃんと勉強したってことはなかなか他の学科とは違うものを得たんだと、それはラッキーなことですね。社会に出ると、建築学科は違うねと言われることが良い意味で多いかな。サークルみたいなもの考えるのは良いですね。みんなやりたいことがあって、その面白さがわからないとついていけないっていうのもありますね。その環境の中で勉強してって。さらに磨きをかけて建築を好きになっていくこともあります。

本松 特徴的な楽しかった授業はありますか。

上山 1年生の時に絵画彫塑で椅子を作ったのは印象に残っていますね。いきなり建築から入るのではなく創作から入れたのは結構良い経験だったと思います。

大原 他の学校でやっていないことで2年生の最初にインキングの製図をする時に烏口をやるよね？あれは結構重要だなって思うな。経験としてはとても残るんじゃないかな。そうじゃないかな？

藤澤 いや結構印象に残っていますね。思い出しました。今だとベクターとかCADとかで線引いちゃうけどあの時は実際にグッと引いて線が建築の図面で大事だと学んだし、でも2年生のはじめにやるとただのトレースになっちゃいますね。今やったほうが楽しめたんじゃないかと思いますね。空間を立ち上げるように線を引いていける気がしますね。

大原 線が烏口で書くと立体だもんね。そういう発見もあるよね。義務でやると面白さに気づかないかな。いまだに烏口をきれいに研ぐことが、包丁研ぐときの砥石の選び方に役に立っているかも。

上田 一寺田先生のメディアデザインが面白かったです。説明すると、グループを組んで1グループ1つの横浜の商店街にまつわる本を作るっていう授業で、実際に何回も足を運んで商店街の人がどうしているか聞きながら都市科学部らしい考察をするんですが、座学とは違ってみんなで1つの成果物を作るっていうのは授業だけど授業じゃないような気がして面白かったです。他の学科の人も何人かいて建築学科

1 期生卒業記念

建築学科

Interview ~Long ver~

教員	大原 一興 先生
卒業生	上田さん、藤澤さん、上山さん
学生インタビュアー	早川さん、久富さん、本松さん

とは違う視点があって、建築学科が揃ったグループは建物の立面のどうのこうのが多いけど、違う視点を持つ他学科の本が見れて面白かったです。

本松 私の代と全く一緒にびっくりしました。建築学科のグループは立面図とか出してきた、都社共の方はカルタとか……

上田 寺田先生に聞きました。1枚1枚紙にも拘ってカルタを作ってたって。良いな。今年はパブリックスペースだったかな？

本松 そうです、パブリックスペースでなんでも良い自由な感じで本当に5つのチームが同じエスキスを受けたのって思うぐらいバラバラな多種多様なものができてびっくりしました。

上田 だから、印象に残るのは他学科の人と一緒に作業した授業ですね。いつもは建築学科の人とずっといるので同じ視点になりがちですが、他学科の人といつもとは違う視点で物事を考えられるので印象に残りました。

藤澤 建築史演習も面白かったな。大野先生と菅野先生が担当で京都、奈良、兵庫の神社仏閣を5泊6日くらいで巡る濃密な時間があり1日5、6軒回って、事前にそれぞれ1軒ずつ調べた神社仏閣についてガイドブックにして資料を見て回るんです。とにかく密度が濃くて、大野先生も楽しんで話してて僕らは歩いてついていくのが精一杯なんだけど、だんだん見て話を聞くうちに流れが体系化されていって、授業の内容が体に入っていく、そういう感覚があってすごく大事な講義だと思ったし、建築学科特有の空気感があり、夜は鴨川でみんなで飲んで、建築史演習は思い出に残っている講義です。

大原 僕も何十年も前になるけど関口先生という大野先生の師匠の方の建築史演習を受けました。その時も充実した時間を過ごして、その時間を忘れられなくて教師として横浜国大に戻ってきて、准教授の頃に学生に混じって連れていってもらいました。その時も関口先生だったけど何度行ってもいいなって思いますね。学生の時は宿で騒ぎすぎて大変怒られました。吉田先生っていう助手の方が怒って投げ飛ばされたりしてたな。24時間、生活を一緒に過ごす経験がちょこちょこ出てきてそういう中で仲が深まっていくのかな。

本松 初めての都市科学ABCの授業でしたが、感想などあれば良かったところも悪かったところもありましたら。

1期生卒業記念

建築学科

Interview ~Long ver~

教員	大原 一興 先生
卒業生	上田さん、藤澤さん、上山さん
学生インタビュアー	早川さん、久富さん、本松さん

藤澤 都市科学部の先生方がオムニバス形式で研究内容を発表していて、いろんな人の話を聞いて面白かったですね。その中でも室井先生の講義で現代演劇のパンフレットをもらって実際観に行って、そういうことを大学の初めに知れている先生がいて面白いなって思った気がしますね。

本松 そうですね、結構いろんな先生の話聞きましたよね。B C はリスクの話などありました。

上山 先生方もいろんな人がいるなって思いましたし、ずっと話している人とかもいて大学生もいろんな人がいるんだなっていうのも知れました。大人数の授業だったので自分の中に落とし込めていなくてレポートも適当に書いていました。

藤澤 確かにめっちゃ人多かったよね。

本松 めっちゃ密でしたね。何か最後に先生から感想ありますか。

大原 日本で初の都市科学部の卒業生だから、アイデンティティーを持ってもらいたいけど、僕は特に答えは持っていないけどそれは年々作り上げていけばいいし、積み重なって築かれていくものかな。おそらく建築の卒業生だったら、都市科学ってことより建築ってということが先に出た仕事の活躍をすると思うけどね。また、都市のこともよくわかってることが大事かな。僕は、できるだけ大都市だけではなく農村を含めた人口の少ない地方都市全体も見通せるようなところで仕事してもらいたいなと。タウンアーキテクトやコミュニティアーキテクトという言い方でその地域の人と一緒に環境を作っていくために働ける人が育っていくといいなって思います。そうすると、都市科学って大都市の話でしょと思われるのは嫌だなという感じはしています。イギリスの大学では都市や建築の並立した学科の中に必ずルーラルスタディーと一緒に入っていて都市があるのは農村など地方があるからでそういう視点を忘れずにいて欲しいです。あえて都市科学を選ぶのであればそういうことを考えて欲しいです。

★関係の皆さま、ご協力いただきまして、有難うございました！